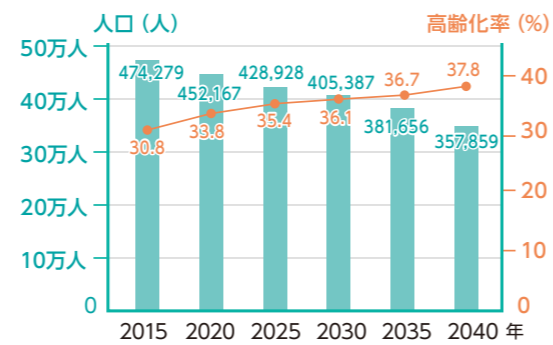


なぜ広域で助け合うの？

人口減少、少子高齢化の進行により、行政サービスを持続的、安定的に提供できなくなるという現実的かつ具体的な課題に直面することになります。また、単独の自治体であらゆる公共施設等を整備・保有していくことにも限界があります。このため、行政区域の枠を超え、社会的、経済的に関係性のある自治体と横の繋がりを築き、行政サービスや都市機能を効率良く活用しながら、地域の社会・経済を支えていくことが重要となります。連携中枢都市圏は、それぞれの自治体が独立し、尊重しあいながらも、協力・連携しあって住民サービスの向上や地域の魅力を高めていくものです。

圏域の人口と高齢化率の推移（見込み）

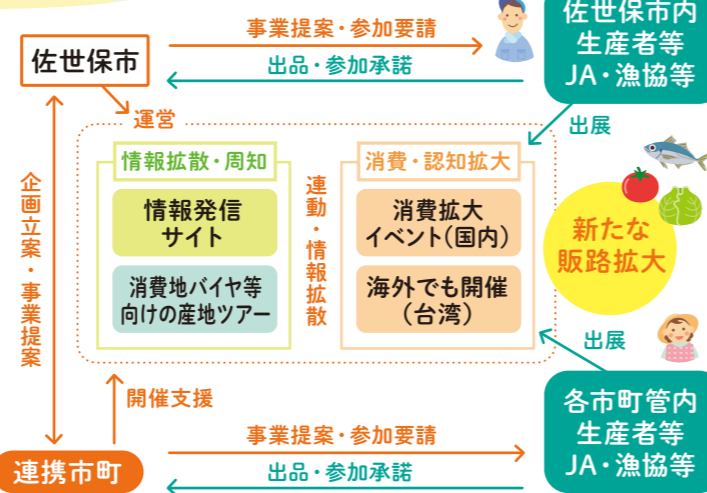


連携イメージ（主な具体的取組の一例）

農水産物等 特産品販路拡大

- 情報発信拠点(サイト、動画)を設け、圏域のオンリーワン食材を紹介し、情報の拡散と新たな市場開拓につなげます。
- 物産展等イベントを開催し、連携市町の多種多様な物産の認知度向上、販売促進を図ります。
- 消費地バイヤー、飲食店オーナー向けの圏域での産地ツアーを開催し、商談の機会を設けます。

事業フロー

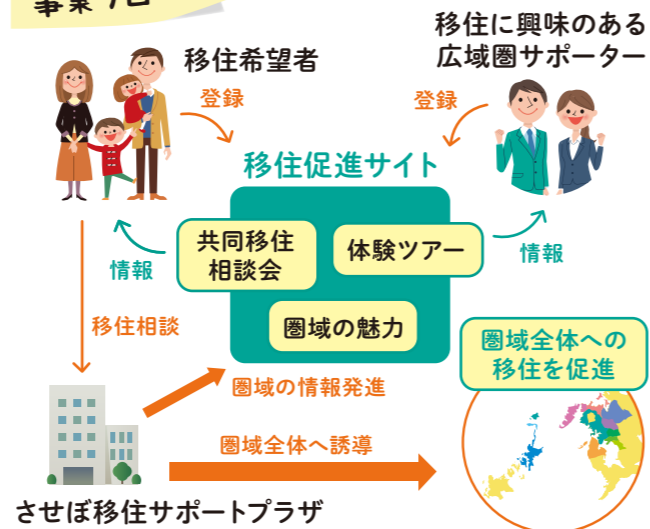


広域圏サポーターの創出

広域圏サポーター(応援隊)として登録した移住希望者に対し、圏域の情報発信や個別の移住体験ツアーを実施します。

- ホームページやフェイスブックを活用し、圏域に興味のある人や第二新卒が広域圏サポーターに登録できるシステムを構築します。
- サポーターへのサービス
 - 圏域の情報発信
 - 首都圏での共同移住相談会の開催案内
 - ニーズに応じた個別移住体験ツアーの実施

事業フロー



西九州させぼ 広域都市圏



5市6町で魅力あふれる西九州へ!



西九州させぼ 広域都市圏



11市町で連携中枢都市圏を形成しました

佐世保市を連携中枢都市(中心市)として、平戸市、松浦市、西海市、東彼杵町、川棚町、波佐見町、小値賀町、新上五島町、伊万里市、有田町の11の自治体が、県境を越えて「西九州させぼ広域都市圏(連携中枢都市圏)」を形成しました。

この「連携中枢都市圏」は、近隣の市町と連携して、行政サービスにかかる費用を節減したり、共同で経済支援を行うなどして、スケールメリットを生かした取り組みを進めるための枠組みです。11市町は、様々な分野で相互に強みを伸ばし、弱みを補いながら圏域全体を活性化していくため、具体的な取り組みを推進していきます。圏域の形成により生活圏が広がることで、人やモノ、経済の交流促進やふるさとの魅力を高め、誰もが暮らしたくなる地域となることを目指します。



圏域の将来像

「あなたが かえるまち 西九州」

～変える・還る・替える～

「変える」=暮らしや地域をより良く変える

「還る」=他の地域に出たとしても再び圏域に還る場所がある

「替える」=圏域内に住まいを替える

圏域の特徴として、自然が豊かで、個性ある様々な歴史・文化を継承しながら、工業・商業の集積によって発展してきた地域であり、生活の中でも多様性を受け入れることができるユニークさがあります。11の市町がそれぞれ主役となりながらも、相互に圏域住民の生活を支え合える魅力的な圏域の発展を目指していきます。

3つの「かえる」。
戻ってきたい、この地域で暮らしたいと思われる地域であり続けるため、この圏域を「ふるさと」として、圏域住民の皆さんとともに、よりよく変えていきましょう。



圏域の目標人口

2040年 (平成52年) **40万人以上**

各市町が策定した総合戦略や、都市圏ビジョンに位置付けた具体的な取り組みを推進し、首都圏等の都市部への転出抑制を図っていくことで目標人口の達成を目指します。

※「都市圏ビジョン」は佐世保市のホームページで公表

主な具体的取組(連携事業)

広域連携による周遊観光の推進
科学的なアプローチや現状分析により、ターゲットを明確にしたインバウンドセールスやマーケティング対策により、圏域内の周遊観光を促進します。

婚活サポートの推進
圏域の拡大により、広域からの参加者の増加、独身男女の登録者の増加が見込まれ、より多くの出会いの場の創出を図ります。

世界遺産の保全活用
平成30年7月に、世界文化遺産に登録された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産の保全・活用を図ります。(平戸の聖地と集落、野崎島の集落跡、頭ヶ島の集落、黒島の集落)

圏域における交流拠点機能の連携
波佐見町の陶器まつり、伊万里市の窯元市、有田町の有田陶器市など、圏域の魅力を東ね情報発信することで、圏域内の交流を促進させます。

クルーズ船入港体制整備
佐世保市の浦頭地区において、東アジアを発着地とするクルーズ船の寄港拠点を形成するため、官民が連携して港湾施設の整備を行います。日本に寄港するゲートウェイ機能を有する拠点港として発展することを目指します。

栽培漁業の広域連携
佐世保市の水産センターを活用して、稚魚などを計画的に生産し、圏域内の種苗供給の安定化や栽培漁業に関する技術・種苗の開発を目指します。

大学等による地域課題解決に向けた研究の推進
九州西部地域の大学・短大等と、西九州させば広域都市圏との連携体制を構築し、地域課題解決に向けた共同研究など、相互間連携の促進を図ります。

工業団地の造成・企業誘致の推進
平戸市、松浦市、西海市、伊万里市、有田町において、工業団地の造成や企業誘致の推進により、新卒者やUターン者等の多様な就労の場の確保と定住人口の増加を図ります。

平戸城大規模改修事業
平戸城の天守閣及び各櫓やライトアップ等のリニューアルや日本100名城初の城の宿泊施設整備を行い、圏域内観光客や交流人口の増加を目指します。

圏域の魅力向上のため、圏域全体で応援します!

連携市町の紹介



国際色豊かな港街

佐世保市

世界で最も美しい湾「九十九島」に代表される、豊かな自然に恵まれた街。旧海軍の軍港として栄えた歴史をもち、米海軍基地のある国際色豊かな港街でもあります。「ハウステンボス」など観光都市としても知られています。

鉄道 日本最西端

平戸市

普通鉄道方式として、日本最西端の駅として広く知られています。駅前には、平戸市出身の作家藤浦洸が揮毫した「日本最西端の駅」という碑が置かれています。

アジの水揚げ 日本一

松浦市

その日に水揚げされたお刺身でもおいしく食べられる新鮮なアジを、アツアツ・サクサクのアジフライにして市内各店舗で提供。松浦市は「アジフライの聖地」を目指しています。

アナログ音の聖地

西海市

音浴博物館は、山の中にある廃校を利用した体験型の博物館です。100年以上前の蓄音機やオーディオの名機が展示されています。レコードは約16万枚収蔵され、好きな曲を自由に聴くことができます。

お茶 連続日本一

東彼杵町

「そのぎ茶」ブランドで親しまれるお茶は、全国茶品評会において平成29・30年度と2年連続で、農林水産大臣賞を受賞。さらに、日本茶アワードでも3度の「日本茶大賞」に輝いています。

紺青色の羽

川棚町

大崎くじゃく園には、昭和38年にインドから友好の印として贈られた色鮮やかなインドクジャク約200羽がいます。春から初夏には、求愛のため雄たちが紺青色のきれいな羽を広げます。

伝統とモダン

波佐見町

400年の伝統をもつ「波佐見焼」。時代のトレンドや生活者ニーズを敏感に感じ取り、いち早く新しいものづくりに挑戦する、おしゃれで使いやすい「カジュアルリッチ」な陶磁器です。

何もなければ 全てある

小値賀町

リゾート施設もコンビニもありません。あるのは採れたてのおいしい野菜と、脂ののった新鮮な魚、昭和の懐かしい風景と、気さくで温かい人の心、おもてなしの心です。

祈りの島

新上五島町

世界文化遺産の構成資産である「頭ヶ島の集落」をはじめ、島の人々に大切に守られてきた29のカトリック教会は日本一集中していると言われており、異なる宗教が共存してきた「祈りの島」です。

「秘窯の里」が生み出す焼き物

伊万里市

江戸時代、幕閣への献上品の製作技法が漏れないよう藩窯が移された「秘窯の里」大川内山。高度な技法を受け継ぎながら新たな技術を取り入れ、350有余年の歴史を現代に伝えています。

日本磁器 発祥の地

有田町

17世紀初頭、泉山で陶石が発見され、日本で初めて磁器が焼かれました。磁器生産の町並みは、国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定。春の陶器市は120万人を超える来客で賑わっています。